

メルスモン注射についてのご説明

医療機関名 やまぐち皮ふ科

医師名 平嶋海帆

メルスモン注射剤は、1956年（昭和31年）に承認された医療用医薬品です。
国内の、安全なヒト胎盤を原料とした注射薬で、多数のアミノ酸を含有しています。

○次のような病気や症状の改善に使われます。

更年期による諸症状（のぼせ、冷え、不眠、イライラ感、頭痛、疲労感、腰痛、肩こりなど）改善。
産後、乳汁分泌が少ない方の治療に使われます。

○次のような副作用が出ることがあります。

注射部位の疼痛、発赤など。悪寒、発熱、発疹など起こることがあります。

○ウイルスや細菌などに対する安全性

胎盤一つずつについてウイルス検査をし、HBV、HCV、HIV 陰性であることが確認された安全な胎盤を原料としています。さらに製造の最終段階に、121°C・30 分間の高圧蒸気滅菌を実施しており、ウイルス・細菌の感染防止対策をとっております。

○変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD) * に対する安全性

1980年代~2004年頃までに英国を中心に狂牛病が流行し、その肉の摂取が関連すると思われる vCJD の発症が報告されました。

メルスモン注射剤は、この狂牛病が流行した時期に、それらの地域に滞在経験のある方の胎盤は原料として使用しておりません。*CJD とは、異常プリオン蛋白が脳内に蓄積し、進行性の認知症や運動障害などの脳症状を起こす極めてまれな病気です。狂牛病が原因と考えられるものを変異型と称しています。

○献血および臓器提供制限について

これまでメルスモン注射剤によると思われる vCJD の報告はありません。しかし理論的な vCJD 等の伝播の危険性を完全には否定できません。このためメルスモン注射剤を含むヒト胎盤由来医薬品の使用者は、献血は出来ません。臓器提供は原則として控えることが求められています。但し、臓器提供の場合、移植希望者が移植医から適切な説明を受けた上で、提供を受ける医師を明らかにしている場合の提供は可能です。

同意書

このたび、メルスモン注射剤による治療を受けるにあたり、その内容について担当医師から説明を受け、了解しましたので、治療に同意いたします。

年 月 日

患者氏名

実施内容 メルスモン注射による治療